



今、私たちは何を見失っているのか

地域福祉と精神科医療との「新たな連携」に向けて 個人情報課題から考える

- 月 日：2019年11月24日（日） 13：00 ～ 16：30
- 会 場：水戸プラザホテル アンフィシアター
- 主 催：社会福祉法人光風会
- 共 催：NPO 茨城県精神障害地域ケア一研究会



みなさんは、地域活動支援センターⅠ型事業所（以下「地活Ⅰ型」）が茨城県内に12ヶ所あるのをご存じですか。「地活Ⅰ型」以外にⅡ型、Ⅲ型があり、どれも市町村から委託されている知的障害・身体障害・精神障害の三障害を対象とする地域福祉事業です。特に「地活Ⅰ型」は、精神障害者を中心に支援を展開する重要な社会資源です。

ところが何故か、障害者総合支援法の施行以降、自立支援給付の事業への対応に追われる中で、「地活」情報が精神障害者に届き難くなってしまいました。

「精神科医療の側では、地域福祉がどのように変わり、大変になっているか等の情報はほとんど入って来ない。正直言って分からない。温度差が大きいと思う」と、精神科病院のPSWが言っていました。

1986年の精神保健福祉法施行により、「精神病院への隔離から地域へ」と精神障害者の地域福祉が動き出し、精神科病院の中が地域に見えるようになったはずですが。

しかし時代は、個人情報保護法が制定され、医療や福祉分野にもその対応が求められました。

いつの間にか、新たな壁が出来ています。

みなさん気づいていますか。見失っているものを一緒に点検しましょう。

11月24日スケジュール

受付：12:00 ~

開場：12:30



【基調講演】 13:00 ~ 14:00

そもそも個人情報の保護とは — 精神科医療との関連から —

講演者：武藤 英一郎 氏 (弁護士)

茨城県弁護士会

高齢者・障害者総合支援センター運営委員会 委員

座長：高橋 活夫

土浦児童相談所長

NPO 茨城県精神障害地域ケア研究会代表理事

課題Ⅰ 地域活動支援センター(以下略「地活」)に登録する自宅で一人暮らしをしていた男性が、精神科病院に再入院した。入院当初は、本人から「地活」に電話が入ることもあった。2、3年と入院が長期化してきた頃も、本人への面会や本人宛に月間予定表等を郵送して関係を繋いでいた。入院6年目に入る12月暮れに本人の状態を確認したところ、すでに半年前に内科に転院して死亡していたことが知らされた。詳細は、個人情報保護のため家族から聞いて欲しいと断られ、「地活」に状況を伝える関係はすでに途絶えていたことを知ることになった。

・・・病院から「地活」に連絡が入らなくなったのは何故か？

課題Ⅱ 2014年精神保健福祉法の一部改正により、「保護者制度」が廃止された。医療保護入院等における「家族」課題は、病院に何をもちかしているのだろうか。

個人情報保護を理由に、「家族」に伺いを立てて面会の可否や外出などを判断するように、精神科病院側の態度が変わった。それは、日本の医療機関全体が、「家族から訴訟されないようにする」ことが最優先されるようになったことと関連しているのだろうか。

・・・「家族」に伺いを立てるといふことはどういう意味か？

【シンポジウム】 14:15～16:30

今、私たちは何を見失っているのか

地域福祉と精神科医療との「新たな連携」に向けて

個人情報課題から考える

◇ コーディネーター：斎藤 悟

社会福祉法人光風会業務執行理事 精神保健福祉士

◇ 指定発言者：武藤 章代

水戸保健所地域保健調整監兼保健指導課長 保健師

◇ シンポジスト：

- 精神科病院の中で、個人情報の取扱と退院支援の状況変化

中村 隆雄 石崎病院 精神保健福祉士

- 病棟の中で、個人情報の取扱と退院支援の状況変化

佐川 朋美 県立こころの医療センター看護局長 看護師

- 精神科病院における個人情報の取扱の変化

高沢 悟 犬山病院院長 医学博士・精神保健指定医

- 再び、精神科病院の中が見えにくくなっている

高島 眞澄 NPO 茨城県精神障害地域ケア研究会、精神保健福祉士

課題Ⅲ 障害者総合支援法以後、「計画相談」が地域福祉の窓口になり、地域支援側と医療側との「顔が見える関係」は薄れ、地域における社会資源の情報は「空きがあるかないか」という確認だけで済まされつつある。

未だに、日本の精神科病院には、数年・数十年以上の入院者が在院しており、退院促進や地域定着事業の展開は急務な課題である。そのためか、地域における社会資源の質が問われず、如何に効率よく退院に繋ぐかが重要視されるようになった。

・・・収容施設化するグループホームの問題性を共有できるのか？

課題Ⅳ 課題 1 のケースは、既に入院長期化になっていた。一人暮らしの自宅への退院という方向性に問題が無かったのか。「地活」では、すでに車の運転が出来なくなっていたことや、ゴミ出し場が自宅から遠い所にあるなど地域特性も把握していた。

50 代後半の再入院の危機やニューロングステイ課題として、具体的な援助・支援課題を私たちは医療側と共有すべきだったのではないか。

私たちは、「退院は、病院の役割」として、地域からの支援を事実的に中断していたことを振り返る必要がある。

・・・個人情報の保護という壁に疑問を持たなかったのは何故か？

● 参加費 2,000 円（資料代）

当日、受付にてお支払いください。

● 水戸プラザホテル（茨城県水戸市千波町2078-1）

アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ■自動車利用 常磐自動車道水戸ICから国道50(バイパス)号線約7km約10分 目標物:茨城放送局、マクドナルド ■交通案内文 JR常磐線水戸駅南口出口→タクシー約15分
------	--

● 問い合わせ（事務所:水戸市見川1-1183-2）

TEL/FAX:029-244-2623（担当:高島・杉山）

（注）FAX は随時受け付けています。

電話での問い合わせは水曜日限定してお願いします。

● 申し込み方法 事務局宛に FAX 又は電話でお願いします。

FAX:029-244-2623

代表者氏名/	職種/	経験年数/	年
勤務・所属先/			
勤務先住所/			
連絡先 tel/ 勤務先・自宅（いずれかに○）			
参加者氏名/	職種/	経験年数/	年
参加者氏名/	職種/	経験年数/	年
参加者氏名/	職種/	経験年数/	年
参加者氏名/	職種/	経験年数/	年
参加者氏名/	職種/	経験年数/	年